

はだの色や言葉がちがっても

小学校五年

この世界には、さまざまな人種や民族が生活しています。同じ人間なのに、はだの色や文化、言葉などが違うという理由で差別が生まれ、大きな問題となっています。

ぼくは小さいころ、お父さん、お母さんといっしょに世界を旅した経験があります。はだの黒い人、白い人、言葉のちがう人などさまざまな人とふれ合ってきましたが、言葉が通じなくても心が通じ合っていれば仲よくなれると思います。

それでも場所によっては、差別を感じることはありませんでした。ヨーロッパのお店では、

「あなたは中国人ですか？」

と聞かれることが何回ありました。

「日本人です。」

と答えるとお店の人の態度が変わり、

「中国人は好きじゃないけど、日本人は大好きですよ。こそ。」

と、かんげいされたのです。その時、自分が外国人

だったらかんげいされていないと思うと悲しい気持ちになりました。また、アジア人という見た目だけで「イエローモンキー」とばかにされたこともありました。

楽しみに他の国に旅行に行っているのに、外国人という理由で差別され、その国が楽しめない世の中ではないけないと思います。

最近、日本でも外国の人を見かけるようになりました。ぼくはその人たちに、日本のいいところをもっとたくさん知ってもらいたいと思います。ぼくも外国に行った時、たくさんの人に優しくされてうれしかったように、日本に來ている人を優しくかんげいし、日本を好きになってほしいと思っています。はだの色がちがっても、言葉がちがっても、同じ人間なのだから、世界中の人々が笑顔で過ごせる世の中になれるよう、まずは自分のできることからやっていきたいです。